

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「DC ガリレオ」は、このたび、第44期の決算を行いました。本ファンドは、独自開発の計量運用モデルを用い、日本を含む世界の先進国の債券および通貨に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行っております。今期の運用経過等について、以下のとおりご報告申し上げます。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第44期末 (2023年10月20日)		第44期	
基準価額	9,296円	騰落率	-5.6%
純資産総額	1,625百万円	分配金合計	0円

(注)騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

本ファンドは、約款において運用報告書(全体版)を電子交付できる旨が定められております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

<閲覧方法>

右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「ファンド一覧」より本ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

## 交付運用報告書

# DC ガリレオ

追加型投信／内外／債券

第44期(決算日2023年10月20日)

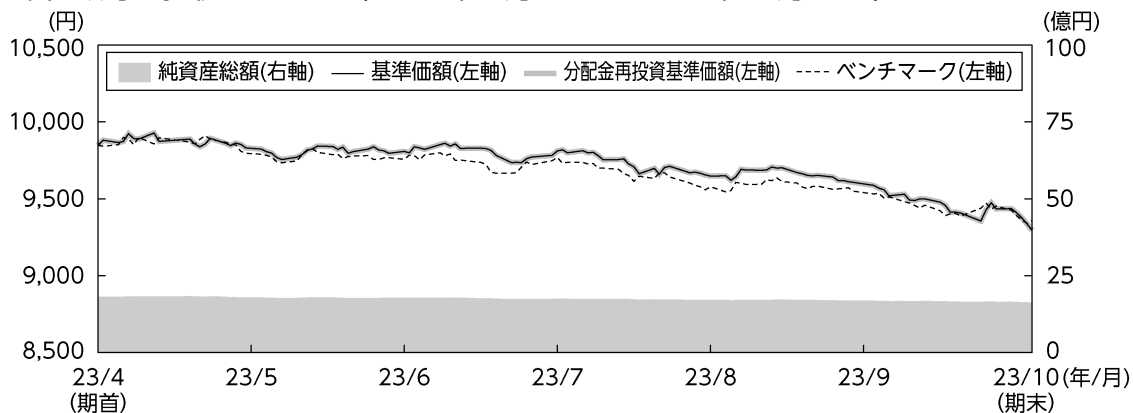
作成対象期間:2023年4月21日～2023年10月20日

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー  
お問合せ先: 03-6437-6000 (代表)  
受付時間: 営業日の午前9時～午後5時 | [www.gsam.co.jp](http://www.gsam.co.jp)

## 運用経過

### ■ 基準価額等の推移について（2023年4月21日～2023年10月20日）



第44期首：9,850円

第44期末：9,296円

（当期中にお支払いした分配金：0円）

騰落率：-5.6%（分配金再投資ベース）

- (注1) ベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（100%為替円ヘッジ、円ベース）80%+日本円1ヵ月T I B O R 20%です。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- (注4) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。
- (注5) 騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

### ■ 基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の9,850円から554円下落し、期末には9,296円となりました。

#### 上昇要因

資産間配分戦略のプラス寄与が基準価額の上昇要因となりました。また、保有する債券からの利息収入も基準価額の上昇要因となりました。

#### 下落要因

債券国別配分戦略や通貨配分戦略のマイナス寄与などが基準価額の下落要因となりました。

## ■ 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2023年4月21日～2023年10月20日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	67円 (32)	0.687% (0.330)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(32)	(0.330)	
(受託会社)	( 3)	(0.027)	
売買委託手数料 (先物・オプション) (プライムブローカー)	2 ( 1) ( 1)	0.021 (0.015) (0.006)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	4 ( 0) ( 1) ( 4)	0.046 (0.003) (0.007) (0.036)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 目論見書・運用報告書等の作成・印刷に係る費用、信託事務処理等に要するその他の諸費用
合計	73	0.754	

期中の平均基準価額は9,748円です。

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む。)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、本ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、本ファンドに対応するものを含みます。

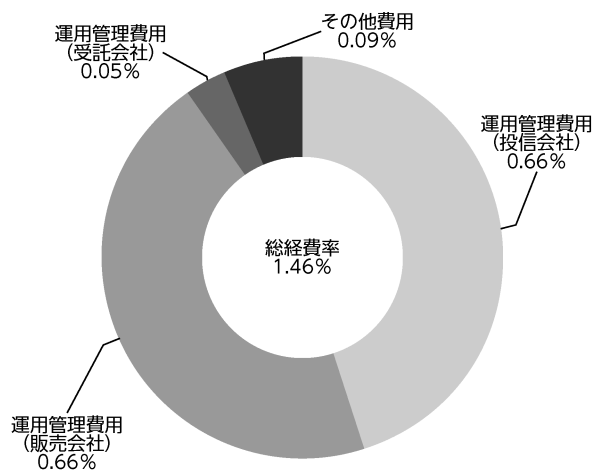
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

### (参考情報)

#### ■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.46%です。



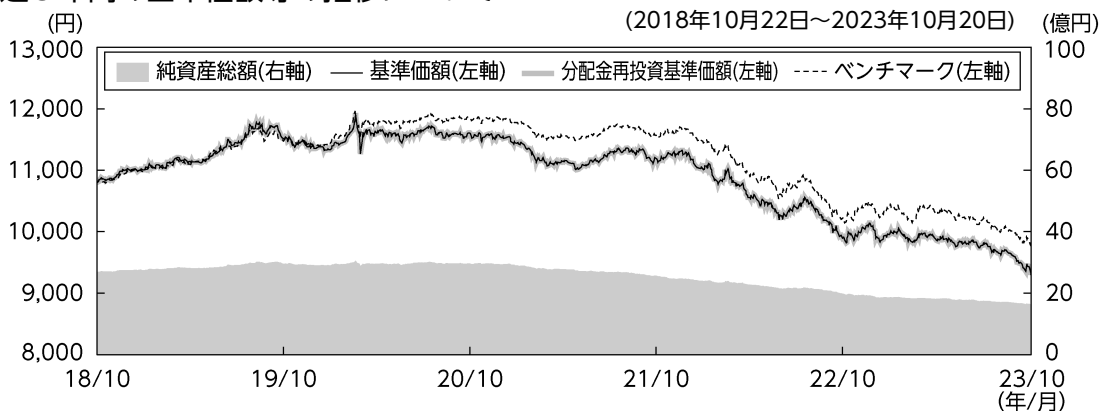
(注1) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ■ 最近5年間の基準価額等の推移について



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかにについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- (注3) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、2018年10月22日の基準価額を起点として指数化しています。
- (注4) ベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス(グローバル)(100%為替円ヘッジ、円ベース)80%+日本円1ヵ月T I B O R 20%(2021年12月31日まではJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス(グローバル)(100%為替円ヘッジ、円ベース)80%+1ヵ月円L I B O R 20%)です。

## ■ 最近5年間の年間騰落率

	2018/10/22 決算日	2019/10/21 決算日	2020/10/20 決算日	2021/10/20 決算日	2022/10/20 決算日	2023/10/20 決算日
基準価額(分配落)(円)	10,795	11,515	11,597	11,169	9,890	9,296
期間分配金合計(税引前)(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	—	6.7%	0.7%	-3.7%	-11.5%	-6.0%
ベンチマーク騰落率	—	6.3%	3.2%	-2.5%	-11.9%	-3.6%
純資産総額(百万円)	2,687	2,959	2,963	2,559	1,974	1,625

- (注1) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。
- (注2) 純資産総額の単位未満は切捨てで表示しています。
- (注3) ベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス(グローバル)(100%為替円ヘッジ、円ベース)80%+日本円1ヵ月T I B O R 20%(2021年12月31日まではJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス(グローバル)(100%為替円ヘッジ、円ベース)80%+1ヵ月円L I B O R 20%)です。

## ■ 投資環境について

### <外国債券市場>

当期は、主要先進国の10年国債利回りは総じて緩やかに上昇（価格は下落）しました。

F R B（米連邦準備制度理事会）は金利目標を5%から5月と7月に0.25%ずつ引き上げ、5.5%としました。これは米国の消費者物価（コア指数）の対前年同月比の上昇率が5%台と高い水準にあったことや、失業率が3.5%と歴史的に極めて低い水準にあり、労働需給のひっ迫感が強かったことにあります。F R Bも利上げの可能性を示唆し続けたことから、米国10年債利回りは3.5%程度から緩やかに上昇し続け、期末には5%程度まで上昇しました。ユーロ圏では物価上昇が沈静化せず、欧州中央銀行は発表金利を期初の3.5%から0.25%ずつ連続して引き上げ、期末には4.5%としました。ドイツ10年債利回りは2.5%程度から期末には3%程度まで上昇しました。同様に政策金利が連続して引き上げられた英国でも、英国10年債利回りは3.75%程度から期末には4.5%程度まで上昇しました。

### <外国為替市場>

外国為替市場では、主要国通貨は対円で上昇しました。米ドル円相場は、期初では1米ドル=135円近辺でしたが、日米金利差の拡大を背景に円安・米ドル高傾向が続き、期末には1米ドル=150円近辺まで下落しました。英ポンド、ユーロ、豪ドルなど主要通貨は、期を通して米ドルに対して下落しました。

## ■ ポートフォリオについて

### <本ファンド>

ガリレオ・マザーファンドを組入れることにより、日本を含む世界各国の債券および通貨への投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。

### <本マザーファンド>

基本資産配分は、債券80%、円短期金融商品20%とし、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを用いて、主として日本を含む世界の先進国の国債および通貨を中心に分散投資を行いました。

当社のアクティブな投資判断に基づいて、この運用期間中に投資配分比率を機動的に変更しました。

### 債券国別配分戦略

当期の債券国別配分戦略は、本マザーファンドのパフォーマンスにマイナス寄与となったものと推定しています。カナダはプラス要因となりましたが、英国、オーストラリアがマイナス要因となり、戦略全体としてはマイナスとなりました。

### 通貨配分戦略

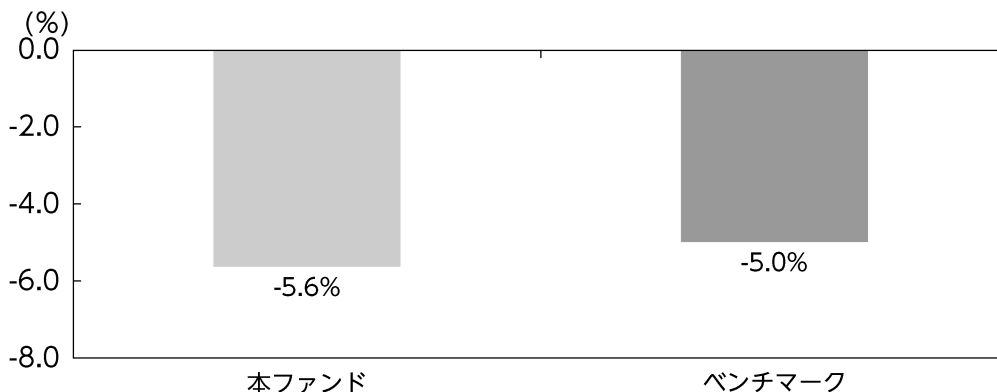
通貨配分戦略は、債券国別配分戦略とは独立して行います。例えば、米国の債券について強気の見通しであっても、米ドルに対して弱気の見通しであれば、米国債券にはオーバーウェイトとすると同時に、米ドルをアンダーウェイトとするということとなります。当期の通貨配分戦略は、本マザーファンドのパフォーマンスにマイナス寄与となったものと推定しています。米ドルがプラス要因となりましたが、カナダ・ドルやスイス・フランがマイナス要因となり、戦略全体としてはマイナスとなりました。

### 資産間配分戦略

当期の資産間配分戦略は、本マザーファンドのパフォーマンスにプラス寄与となったものと推定しています。

## ■ ベンチマークとの差異について

<当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）>



(注1) 基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) ベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（100%為替円ヘッジ、円ベース）80%+日本円1ヵ月TIBOR20%です。

当期の本ファンドのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は-5.6%となり、ベンチマーク（-5.0%）を下回りました。当期においては、債券国別配分戦略と通貨配分戦略がマイナス寄与となった一方、資産間配分戦略はプラス寄与となりました。

## ■ 分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、当期の分配は行わないこととしました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

<分配原資の内訳>

(単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項目	第44期
	2023年4月21日～2023年10月20日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	7,644

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針について

### <本ファンド>

今後も引き続き本マザーファンドを組入れることにより、日本を含む世界各国の債券および通貨への投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

### <本マザーファンド>

基本資産配分は、債券80%、円短期金融商品20%とし、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを用いて、主として日本を含む世界の先進国の国債および通貨を中心に分散投資を行います。

### 債券国別配分戦略

債券国別配分においては、フランスやオーストラリアに対して強気の見通しとする一方で、ドイツや米国に対して弱気の見通しとしています。フランスに対しては、バリュエーションおよびマクロの観点から強気の見通しとしています。オーストラリアに対しては、バリュエーションの観点から強気の見通しとしています。一方、ドイツに対しては、モメンタムおよびマクロの観点から弱気の見通しとしています。米国に対しては、モメンタムの観点から弱気の見通しとしています。

### 通貨配分戦略

通貨配分においては、米ドルやニュージーランド・ドルに対して強気の見通しとする一方で、スイス・フランやカナダ・ドルに対して弱気の見通しとしています。米ドルに対しては、モメンタムおよびバリュエーションの観点から強気の見通しとしています。ニュージーランド・ドルに対しては、リスク・プレミアムおよびバリュエーションの観点から強気の見通しとしています。一方、スイス・フランに対しては、リスク・プレミアムおよびバリュエーションの観点から弱気の見通しとしています。カナダ・ドルに対しては、モメンタムおよびマクロの観点から弱気の見通しとしています。

### 資産間配分戦略

世界債券と円キャッシュ間の資産間配分戦略では、世界債券に対してモメンタムの観点から弱気の見通しとしています。

(上記見通しは2023年10月20日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。)

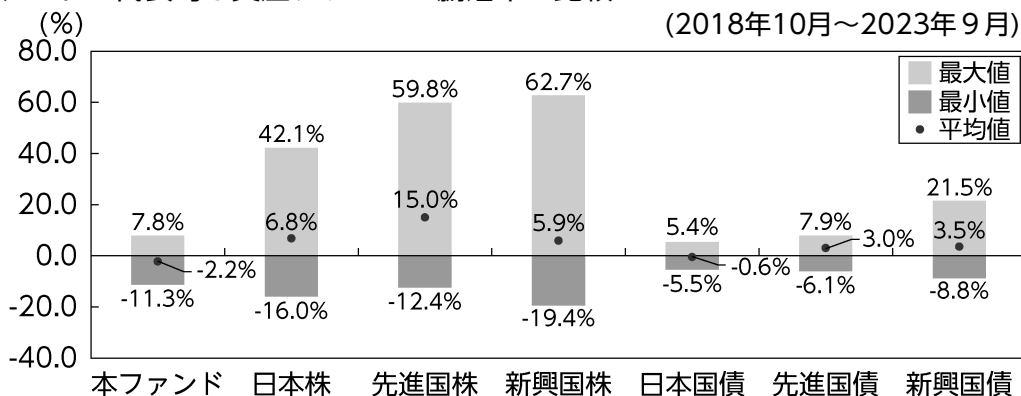


## 本ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	原則として無期限
運用方針	日本を含む世界各国の債券・通貨への分散投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。債券市場の国別配分、および通貨配分はゴールドマン・サックスが開発した3つの計量モデルを組み合わせて用いることにより決定し、ポートフォリオを構築します。
主要投資対象	
本ファンド	ガリレオ・マザーファンドの受益証券
ガリレオ・マザーファンド	日本を含む世界各国の債券および通貨
運用方法・組入制限	<p>①主としてマザーファンドの受益証券に投資し、原則として、その組入比率は高位に保ちます。</p> <p>②本ファンドおよびマザーファンドにおける組入制限は下記のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の70%以下とします。</li> <li>・外貨建資産への投資割合については、特に制限を設けません。</li> </ul>
分配方針	原則として毎計算期末（毎年4月20日および10月20日。休業日の場合は翌営業日。）に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利子・配当等収益および売買損益（評価損益を含みます。）等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定しますが、長期的な信託財産の成長に資するため、収益分配金は少額に抑えることを基本方針とします。

## (参考情報)

## ■ 本ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



○上記は、2018年10月から2023年9月の5年間ににおける1年騰落率の平均値・最大値・最小値を、本ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

○各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

□東証株価指数（TOPIX）の指数値および東証株価指数（TOPIX）に係る標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社の知的財産です。□MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIインクに帰属します。MSCIおよびMSCIの情報の編集、計算、および作成に関与するその他すべての者（以下総称して「MSCI当事者」といいます）は、MSCIの情報について一切の保証（独創性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性を含みますが、これらに限定されません）を明示的に排除します。MSCI、その関連会社およびMSCI当事者は、いかなる場合においても、直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害、懲罰損害、派生的損害（逸失利益を含みます）およびその他一切の損害についても責任を負いません。MSCIの書面による明示的な同意がない限り、MSCIの情報を配布または流布してはならないものとします。□NOMURA-BPI国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。□FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。□JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバルに関する著作権は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

- ・海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。
- ・全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。
- ・本ファンドの騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- ・騰落率は当期末の直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

## 本ファンドのデータ

### ■ 本ファンドの組入資産の内容 (2023年10月20日現在)

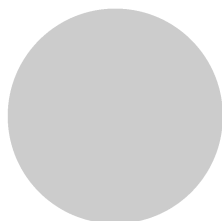
#### ○ 組入上位ファンド

(組入銘柄数：1 銘柄)

ファンド名	比率
ガリレオ・マザーファンド	100.8%

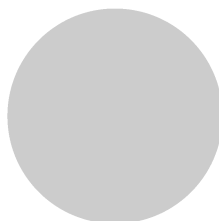
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

#### ○ 資産別配分



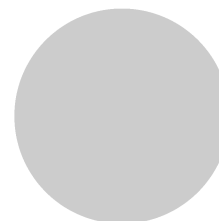
マザーファンド受益証券  
100.8%

#### ○ 国別配分



日本  
100.8%

#### ○ 通貨別配分



日本円  
100.8%

(注1) 上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注2) 国別配分は発行国もしくは投資国を表示しています。国・地域別による配分です。

### ■ 純資産等

項目	第44期末
	2023年10月20日
純資産総額	1,625,335,815円
受益権総口数	1,748,371,817口
1万口当たり基準価額	9,296円

(注) 期首元本額は1,843,196,355円、当作成期間中において、追加設定元本額は110,098,774円、同解約元本額は204,923,312円です。

## ■ 組入上位ファンドの概要

### ガリレオ・マザーファンド (2023年10月20日現在)

○基準価額の推移について (2023年4月21日~2023年10月20日)



(注) 基準価額の推移については組入れファンドの直近の計算期間のものです。

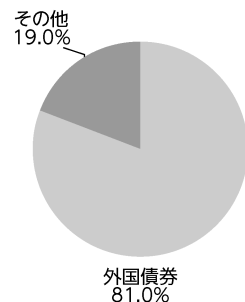
○組入上位10銘柄

(組入銘柄数：12銘柄)

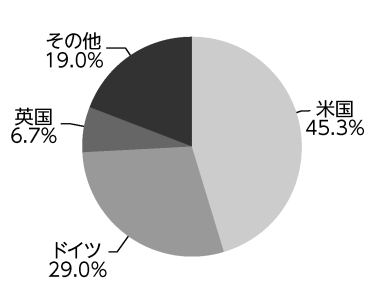
	銘柄	種別	通貨	比率
1	US TREASURY N/B 6.25%	国債	米ドル	17.2%
2	US TREASURY N/B 4.5%	国債	米ドル	15.7%
3	US TREASURY N/B 3%	国債	米ドル	12.4%
4	DEUTSCHLAND REP 4.75%	国債	ユーロ	6.3%
5	DEUTSCHLAND REP 6.25%	国債	ユーロ	5.9%
6	DEUTSCHLAND REP 5.5%	国債	ユーロ	5.9%
7	DEUTSCHLAND REP 4.75%	国債	ユーロ	5.6%
8	DEUTSCHLAND REP 4%	国債	ユーロ	5.3%
9	UK TREASURY 4.25%	国債	英ポンド	2.0%
10	UK TSY 4 1/4% 2039 4.25%	国債	英ポンド	1.7%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

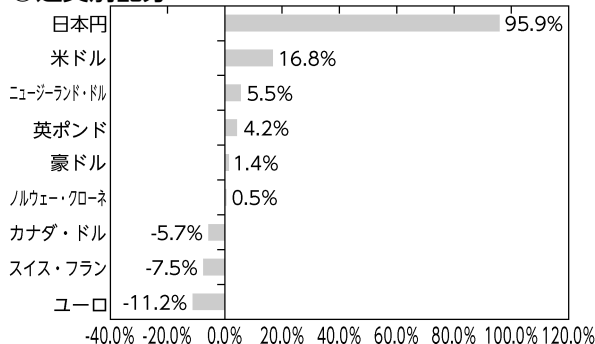
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) データは組入れファンドの直近の決算日時点のものです。

(注2) 国別配分は発行国もしくは投資国を表示しています。国・地域別による配分です。

(注3) 上記の比率は全て組入れファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とまらない場合があります。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。